

# スーダン地域の紛争

社会 A 班 岡田優作 仁山銀次郎 朝日祐衣 権藤那秀子

## 1. はじめに

世界のあらゆるところで起こる紛争。その原因、解決方法はさまざまです。

私たちは、

- ① 第二次世界大戦後最も死者の多い紛争である。
- ② PKO(国連平和維持活動)の一環で、日本も自衛隊を派遣しており、私たちとも関係がないとはいえない紛争である。

という理由で、今でも内戦が続いているスーダンの過去の内戦から現在の問題について調べ、自分たちなりに解決策を考えました。

## 2. 研究方法

スーダンの歴史や紛争についてインターネットを使って調べ、知識を深める。

世界各地でおこっている紛争を分析し、その傾向を調べ、(※)33の戦争や紛争に地域に関するレーダーチャートを作成し、ほかの紛争とスーダンと比較して、解決策を考える。

## 3. スーダン内戦とは

### (1)3C 政策とスーダン

1820 年、エジプトを支配下に置いていたイギリスが、3C 政策の一環でスーダンへ侵攻しました。イギリス軍の侵攻によってスーダンは植民地になってしまいます。

### (2)分割統治

スーダンを植民地にしたイギリスは、分割統治を行います。これによってスーダンでは南北対立がおこります。植民地支配にはよく使われる統治システムであるこの分割統治が、現在までの内戦の大きな原因となっています。

### (4)第一次、第二次スーダン内戦

内戦により死者は約 190 万人にのぼり、400 万人以上の人々が家を失うという、第二次世界大戦以降最も死者の多い戦争のひとつとなりました。

また、大きな原因の一つに資源の問題があります。石油問題と湿地帯をめぐる問題です。スーダン領土内の産油地域の 6 割～7 割が南部に集中していて、肥沃な農業地帯である湿地も南部に集中しています。そのため、権力や石油精製の技術を持つ北部が南部の天然資源の権利を取ろうとして対立が生じました。

#### 4. 解決方法

私たちが考えた解決方法は

- ① 現在はスーダンと南スーダンに分かれているが、もとの一カ国という形に戻す。
- ② 政府は北部と南部から一人ずつ出し、国のトップを二人という形にする。
- ③ 国の政策として、まず石油の輸出で利益を得る。この際、利益は国全体に還元されるようにする(南部のインフラ整備や、国民の所得アップなど)。

石油で得た利益で国の経済を豊かにし、さらに中東の産油国に習って、リゾートホテルやカジノの建設などをして観光業を発展させます。

また、隣国のエジプトと観光面で連携します。そうすることで国が豊かになり、その利益が国民に還元されれば、国民の考えは、「紛争はやめて、みんなで協力して働いたほうが幸せだ!」という考えに至る、と考えます。

学校では、北部と南部の争いについて公平な視点から学び、しっかりとした教育を行うことで将来的にも争いをなくすことができると考えました。うまくいけば、石油産業で成功したドバイのように都市は発展し、子供たちもしっかりとした教育が受けられるのではないかと考えます。

私たちが考えた解決策で大事なことは、北部と南部に分け隔てなく石油の利益を配分することです。そして、元々は民族対立なので、権力をいかに平等にするかということも大切です。

#### 5. 考察と課題

この研究結果から、スーダン内戦は資源の利権などが絡んでとても複雑な問題であることがわかりました。日本とは離れた場所の紛争であっても、知っておくべき紛争です。

私たちの解決方法には、

- ① リゾート地はどこに建設するのか、また、人を呼び込める能力はあるのか。
- ② 都市部のみが発達し、内陸部との経済格差が生まれえないか。

という問題点があります。

今後は、この問題点の解決に向けて議論していきたいです。

#### 6. 参考文献ならびに Web ページ

・アフリカ紛争国スーダンの復興にかける一復興支援 1500 日の記録

宍戸健一 著 (佐伯印刷)

・最新地理図表 GEO (第一学習社)

(※) 下線部については本校HPの課題研究ページ(2014年度)の『33の戦争や紛争に関するレーダーチャート』を参照。